



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 炭井 孝志

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 村田 隆 (TEL) 03-5962-7777

四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日 配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	14,336	6.6	913	16.8	876	16.3	511	17.9
25年3月期第1四半期	13,447	7.8	781	129.3	753	119.0	434	186.4

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 674百万円(44.0%) 25年3月期第1四半期 468百万円(203.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	36.00	-
25年3月期第1四半期	30.54	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	36,255	15,318	42.3
25年3月期	33,998	14,801	43.5

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 15,318百万円 25年3月期 14,801百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	-	10.00	-	11.00	21.00
26年3月期	-	-	-	-	-
26年3月期(予想)	-	10.00	-	11.00	21.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	28,100	2.6	1,560	2.2	1,480	3.4	830	7.4	58.41
通期	55,500	1.8	2,720	2.1	2,580	0.2	1,420	0.8	99.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 - 社 除外 - 社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期1Q	14,211,000株	25年3月期	14,211,000株
----------	-------------	--------	-------------

期末自己株式数

26年3月期1Q	91株	25年3月期	91株
----------	-----	--------	-----

期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期1Q	14,210,909株	25年3月期1Q	14,210,909株
----------	-------------	----------	-------------

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想など将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想など将来予測情報に関する説明	5
2 . サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3 . 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日)におけるわが国の経済は、株価上昇に伴い消費マインドが改善したこと、また円安の進行により輸入品に価格上昇の影響がありました。輸出環境に改善が見られたこと等を背景に、緩やかな回復基調で推移したものと思われ、海外の経済につきましては、欧州では緊縮財政等による景気後退局面であり、また新興国では成長ペースに鈍化が見られたものの、米国経済は堅調に推移したものと思われ、わが国の輸出にも好影響を与えております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、前連結会計年度からスタートしました『中期経営計画(フォース)2012-2014』の指針であります「市場演出型企業としてサラダ市場の演出とサラダ文化の確立」に基づいた5つの成長戦略を掲げており、次のとおり取り組んでおります。

() グローバル企業となる

グローバル企業への成長に向けて、さまざまな展開を進めております。まず中国におきまして、現地有力企業との合併会社による事業展開をしておりますが、これは生産拠点を機軸とした現地生産・現地販売という拠点での展開であります。同様にインドネシアにおいても拠点による事業展開の準備を進めております。この二か国において事業規模の拡大ペースを更に加速させるとともに、日本の食を世界へ広めることを目指し、海外の展示会へも積極的に出展するなど、当社の輸出販売事業も拡大させております。

() 事業領域の拡大

世界各地の特徴あるソースをもとに「世界のソース」シリーズとして商品化するとともに、サラダの領域におきましても「世界のサラダ」シリーズも商品化し、「ケンコーサラダワールド」の展開を加速させてまいりました。また個食化という食スタイルの進行に対応させた小型形態商品の充実を図り、併せてパッケージの刷新も実施しております。

() 「サラダ料理」の確立・情報発信を行い、市場演出型企業としての戦略を実践

「サラダ料理」の情報発信につきましては、AMラジオのニッポン放送「ごごばん サラダのある風景」という番組におきまして、毎週一品「サラダ料理」を発信するとともに、リニューアルしました当社コーポレートウェブサイトにおいて、「サラダ料理」を提案するコンテンツを追加するなど、市場演出型企業としての存在感をアップさせております。また「サラダ料理」をテーマとした料理講習会を定期的を開催することにより、サラダ料理の更なる浸透を進めております。

() サラダカフェブランドの推進・浸透

将来のビジョンとして、サラダカフェ30店舗構想を掲げ、新規出店及び既存店の改装を進めております。店舗を拡大・充実させることでサラダカフェブランド及び「サラダ料理」の推進・浸透を進め

ております。またウェブサイトによる展開と併せて平成24年3月にレシピ集の第一弾を発刊、平成24年11月には第二弾も発刊し、その後もレシピ集を活用した様々な食シーンの演出やメニュー提案を行っております。

() 人材の育成、体制の強化

全社員を対象にした公募型研修制度を始め、さまざまな研修制度の導入や拡充を実施しております。また従来より実施しておりましたトレーサビリティの更なる強化を目指し生産管理システムを導入し、併せて生産に係る業務の標準化・効率化も進めております。またITインフラの強化・活用をテーマとして掲げており、ITのセキュリティ強化やeラーニング研修も開始しました。

以上の5つの成長戦略に加えまして、平成24年9月18日に公表しました「新工場建設に関するお知らせ」のとおり、「静岡富士山工場」につきましては、平成26年4月稼働に向けた準備を着実に進めております。この新工場は、当社のタマゴ事業の領域を原料である「殻付き卵」から「タマゴ製品」まで拡げ、すべてに一貫した生産システムを構築するという戦略を実践するものであります。

当第1四半期連結累計期間における売上高及び利益面の概況は以下のとおりであります。

売上高

売上高につきましては、従来より進めてまいりました外食等の分野別チームについて、新たなチームを追加するなど業態の細分化・提案対象の拡大により、更に深掘りした分野別個別対策の立案・実行した成果が、売上高増へ大きく寄与いたしました。またサラダカフェの活用によるグループ相乗効果を高める戦略を進めております。消費者と直接対話ができるショップにおいて「サラダロール」等の特徴ある商品を展開してきたノウハウの活用やサラダカフェブランドによるお客様とのコラボレーションの展開、またウェブサイトを通じて集めた消費者の声をメニュー提案に活かしてまいりました。このメニュー提案力の強化によりお客様との共同試作におきましても、ますます好評をいただくことができ、お客様との関係を更に強固なものとすることができました。その結果、前年同四半期対比で増収を達成するとともに、期初に策定した売上高計画を上回る進捗でありました。

利益面

利益面につきましては、為替が円安に進行したことにより、足元では原料価格の上昇が進んでおりますが、売上高増による工場の稼働率アップや活動経費の削減等により吸収し、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益のいずれも前年同四半期対比で増益を達成することができました。また期初に策定した利益計画も上回る進捗でありました。これは、当社が進めてまいりました外的環境に左右されにくい経営体質の確立に向けての取り組みの成果であります。今後も安定した利益を生み出し、積極的な投資を継続できる体質へと着実な成長を目指してまいります。

当第1四半期連結累計期間における連結売上高は14,336百万円(前年同四半期比888百万円の増加、6.6%増)、連結営業利益は913百万円(前年同四半期比131百万円の増加、16.8%増)、連結経常利益は876百万円(前年同四半期比122百万円の増加、16.3%増)、連結四半期純利益は511百万円(前年同四半期比77百万円の増加、17.9%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

調味料・加工食品事業

<サラダ・総菜類>につきましては、主力商品でありますポテトサラダがコンビニエンスストア、外食、量販店向けに伸長し、また、オニオン、明太子、豆、パンプキン等の素材を活かした商品の新規採用や伸長による増加、更に和惣菜ではきんぴら商品が好調に推移していることにより、増収に寄与いたしました。

<マヨネーズ・ドレッシング類>につきましては、1kg形態のマヨネーズやドレッシングが製パン、外食、量販店、コンビニエンスストア等様々な分野で採用されました。また「世界のソース」シリーズが好調に推移し、増収に寄与いたしました。

<タマゴ加工品>につきましては、サンドウィッチ用や焼成パン用のタマゴサラダ、またお弁当用の厚焼きタマゴが製パン及びコンビニエンスストア向けで新規採用されました。茹で卵では、半熟タイプの商品が量販店、外食向けに伸長し大幅な増収となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は12,030百万円、セグメント利益は769百万円となりました。

総菜関連事業等

売上高は、量販店向けの新規採用によりポテトサラダ、パスタサラダの主力商品等が増加したことにより増収となりました。利益面は売上高の増加による影響や生産効率の改善、経費削減等のコストダウンの取り組みにより、増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は2,013百万円、セグメント利益は182百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、36,255百万円(前連結会計年度比2,256百万円の増加、6.6%増)となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が1,015百万円、有形固定資産のその他のうち建設仮勘定が増加したこと等によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、20,936百万円(前連結会計年度比1,739百万円の増加、9.1%増)となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が692百万円、流動負債のその他のうち設備未払金が増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、15,318百万円(前連結会計年度比517百万円の増加、3.5%増)となりました。

(自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は42.3%(前連結会計年度比1.3ポイント減)となりました。

(3) 連結業績予想など将来予測情報に関する説明

平成25年5月9日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,919	5,931
受取手形及び売掛金	9,907	10,923
商品及び製品	1,306	1,187
仕掛品	19	16
原材料及び貯蔵品	733	714
繰延税金資産	393	282
その他	123	188
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	18,403	19,244
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,334	4,281
機械装置及び運搬具(純額)	2,727	2,642
土地	4,987	4,987
その他(純額)	304	1,768
有形固定資産合計	12,355	13,679
無形固定資産		
無形固定資産合計	384	375
投資その他の資産		
繰延税金資産	300	288
その他	2,599	2,707
貸倒引当金	44	39
投資その他の資産合計	2,855	2,956
固定資産合計	15,595	17,011
資産合計	33,998	36,255

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,042	8,735
1年内返済予定の長期借入金	995	981
未払法人税等	749	267
その他の引当金	408	270
その他	4,053	5,371
流動負債合計	14,249	15,625
固定負債		
長期借入金	3,183	3,637
退職給付引当金	648	647
その他の引当金	163	171
その他	952	854
固定負債合計	4,948	5,311
負債合計	19,197	20,936
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	9,772	10,127
自己株式	0	0
株主資本合計	14,401	14,756
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	359	422
為替換算調整勘定	40	139
その他の包括利益累計額合計	400	562
純資産合計	14,801	15,318
負債純資産合計	33,998	36,255

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	13,447	14,336
売上原価	9,639	10,278
売上総利益	3,807	4,057
販売費及び一般管理費	3,026	3,144
営業利益	781	913
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	10	14
その他	14	30
営業外収益合計	25	45
営業外費用		
支払利息	16	18
持分法による投資損失	36	61
その他	0	2
営業外費用合計	53	82
経常利益	753	876
特別利益		
投資有価証券売却益	2	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
固定資産除却損	0	1
減損損失	2	-
特別損失合計	3	1
税金等調整前四半期純利益	753	874
法人税、住民税及び事業税	253	255
法人税等調整額	65	107
法人税等合計	319	363
少数株主損益調整前四半期純利益	434	511
四半期純利益	434	511

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	434	511
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	63
繰延ヘッジ損益	0	-
持分法適用会社に対する持分相当額	53	99
その他の包括利益合計	34	162
四半期包括利益	468	674
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	468	674
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	11,425	1,760	13,186	261	13,447	-	13,447
セグメント間の 内部売上高又は振替高	112	2,063	2,176	-	2,176	2,176	-
計	11,538	3,824	15,362	261	15,624	2,176	13,447
セグメント利益又は損失()	704	99	804	45	758	4	753

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 4百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	12,030	2,013	14,044	291	14,336	-	14,336
セグメント間の 内部売上高又は振替高	124	2,174	2,299	-	2,299	2,299	-
計	12,155	4,188	16,344	291	16,635	2,299	14,336
セグメント利益又は損失()	769	182	952	56	895	19	876

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 19百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。